

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

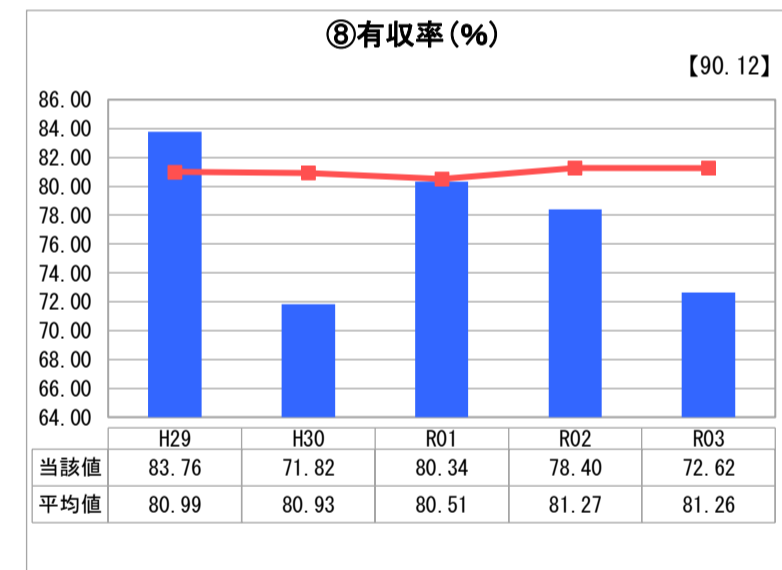
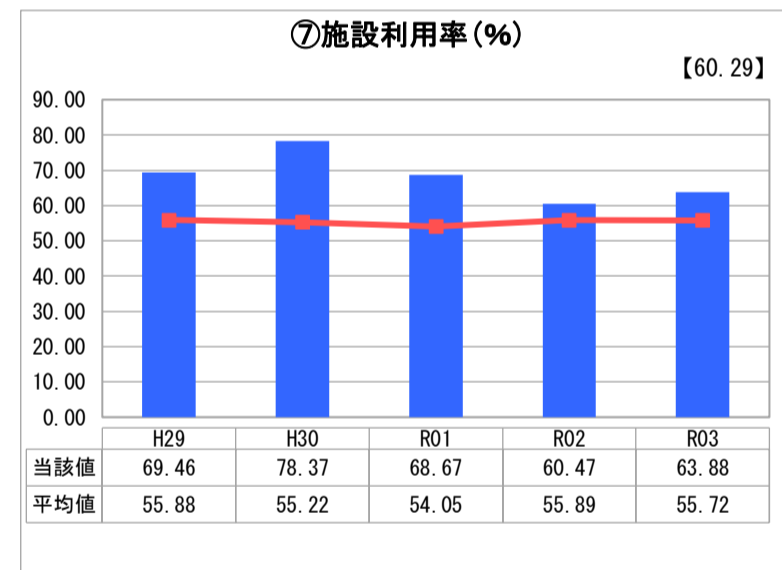
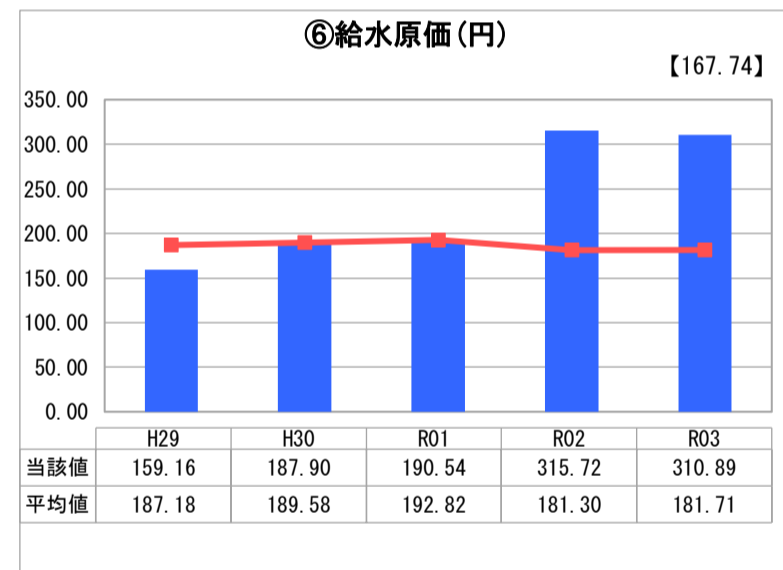
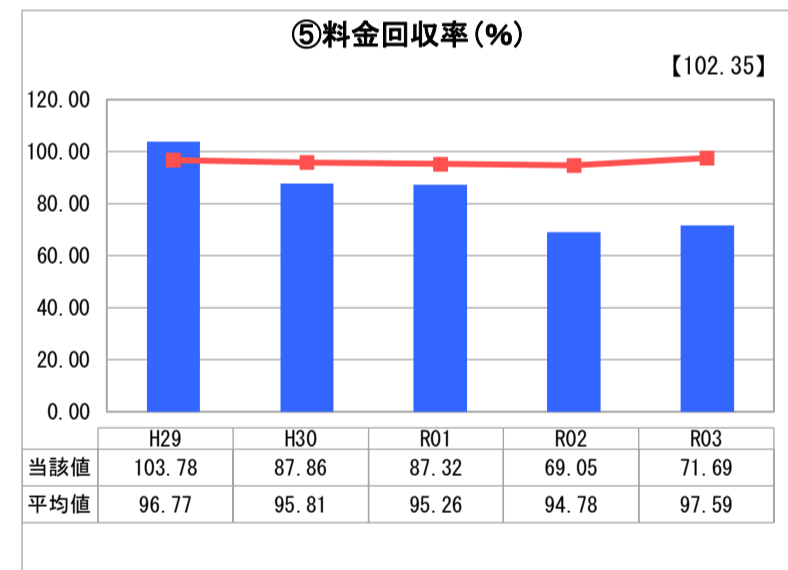
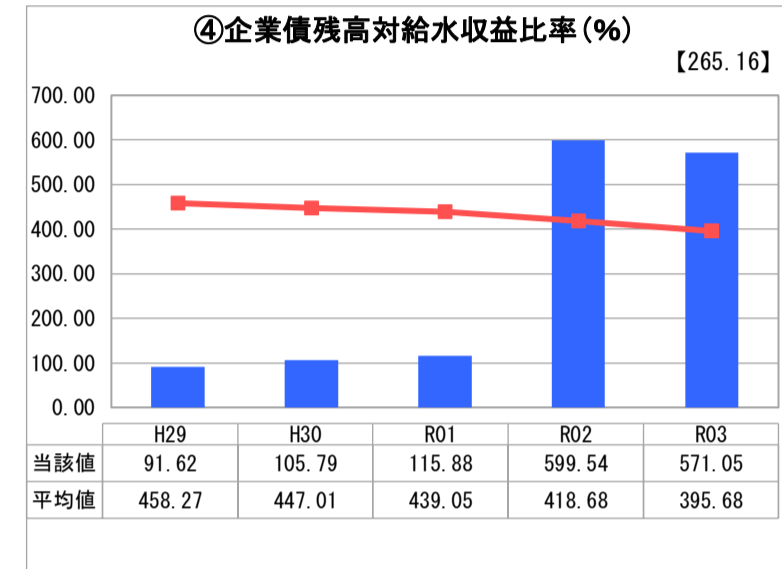
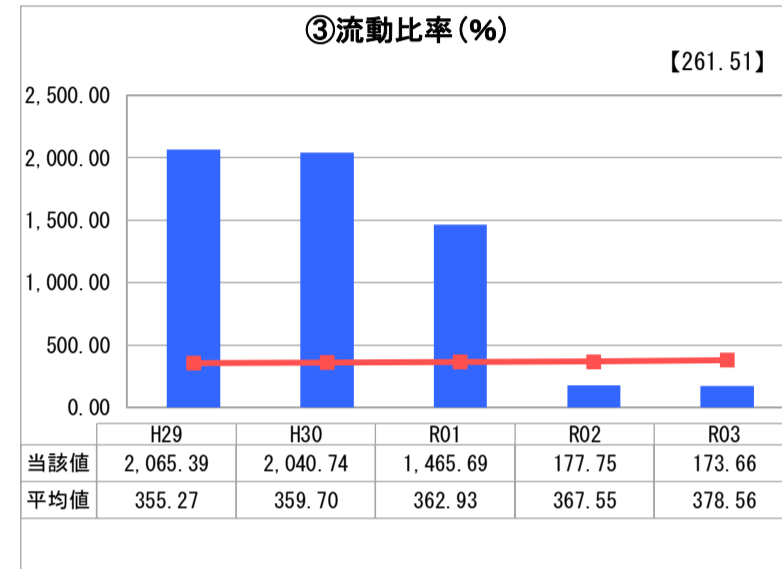
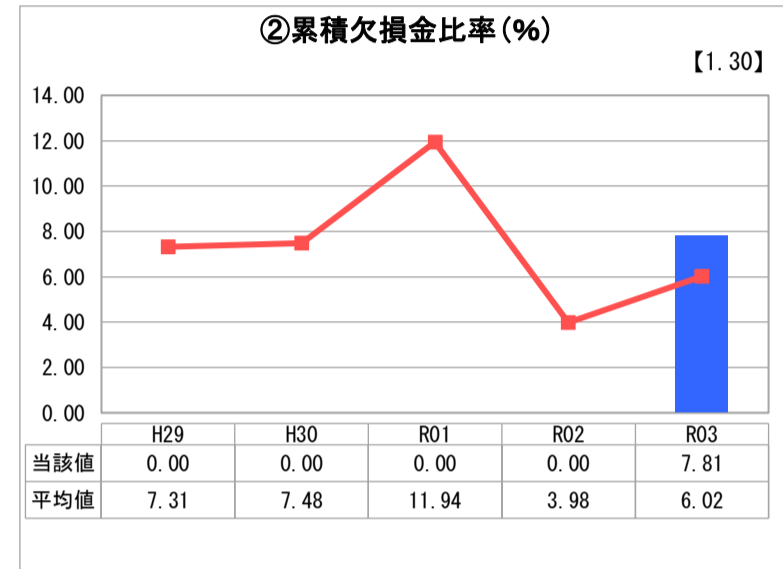
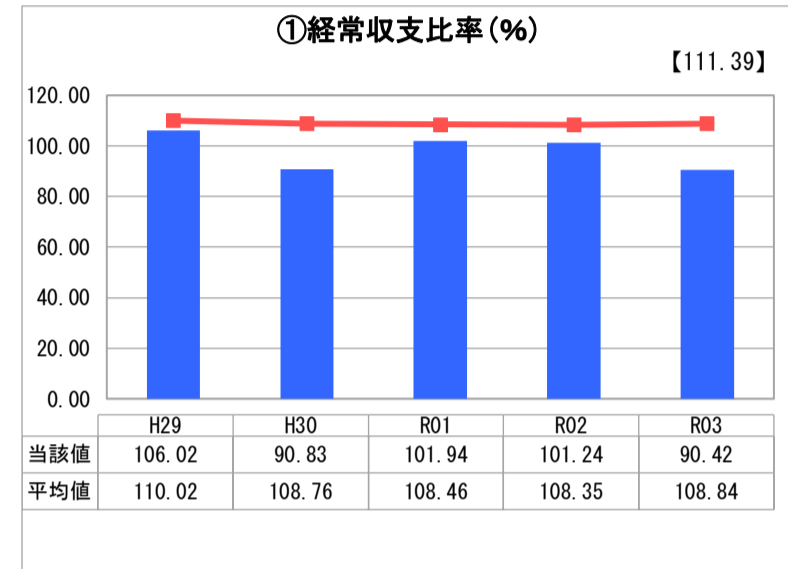
岡山県 高梁市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	59.85	95.23	4,180	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
28,466	546.99	52.04
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
26,684	290.22	91.94

<b>グラフ凡例</b>
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率が100%を割込み単年度の収支は赤字であり、累積欠損金も発生しており、経営の健全化に向けた経営改善を図ることが早急に求められている。

類似団体の平均値に比べ料金回収率が低く、給水原価は非常に高い数値を示している。これは中山間部が多く、高低差の激しい地形に集落が点在しているため、浄水場が点在し、加圧・送水ポンプ、配水池、調整池、減圧弁等の施設が多く、給水原価や施設維持費が高くなっていることに対し、料金収入が不足していることを示している。

流動比率は低く、企業債残高対給水収益比率は非常に高い率を示しており、企業債の償還が経営の大きな負担になっている。平成10年代に旧簡易水道の施設整備を集中して行ったことの影響であり、今後しばらくはこの傾向が続く見込みである。

有収率は類似団体の平均値より低い水準であり、管路の老朽化による漏水が大きく影響していると考えられている。

今後中山間部の給水人口は急激に減少することが予想され、節水意識の向上もあり、給水収益の減少と施設利用率の低下が考えられる中で経営を存続させるためには、経費節減の徹底と安定した給水収益を確保するために水道料金の改定を行う必要がある。

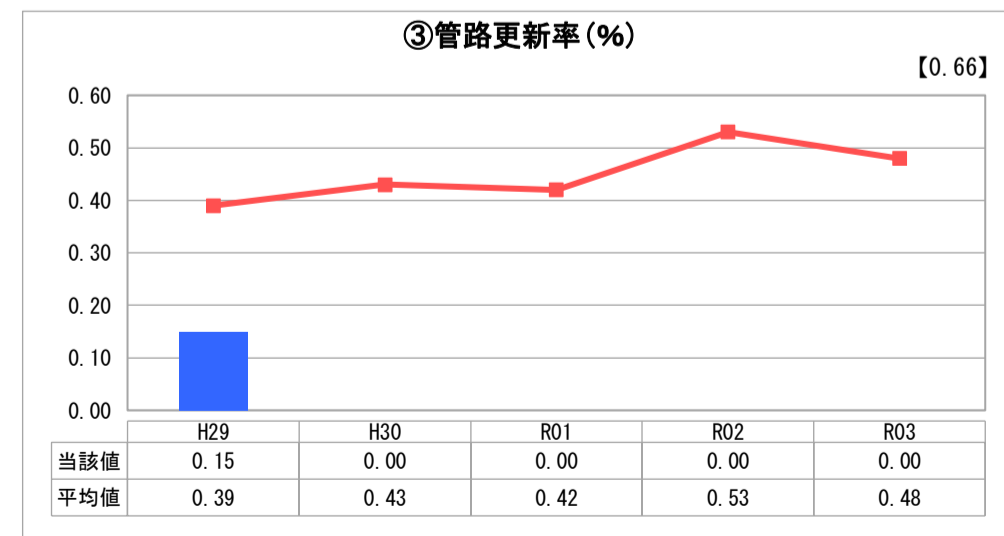
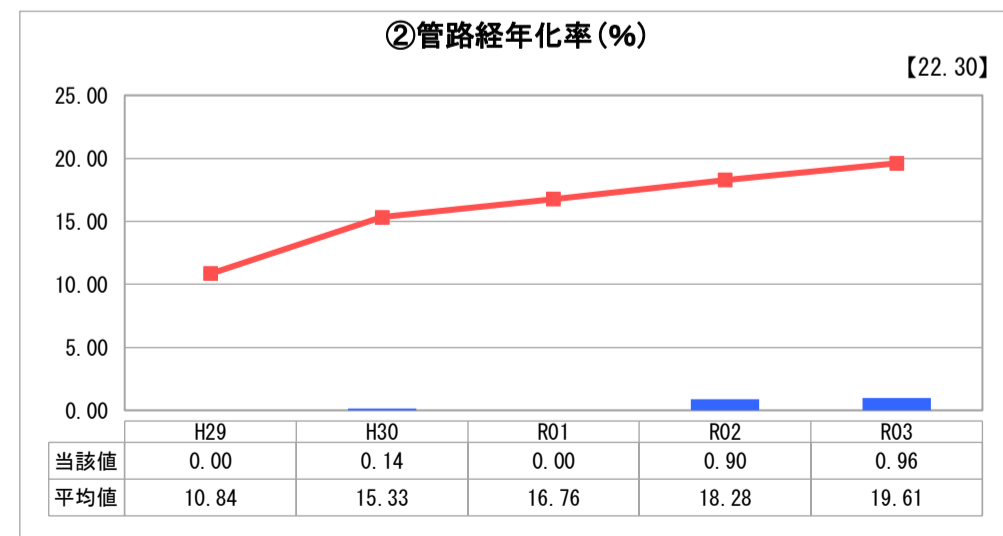
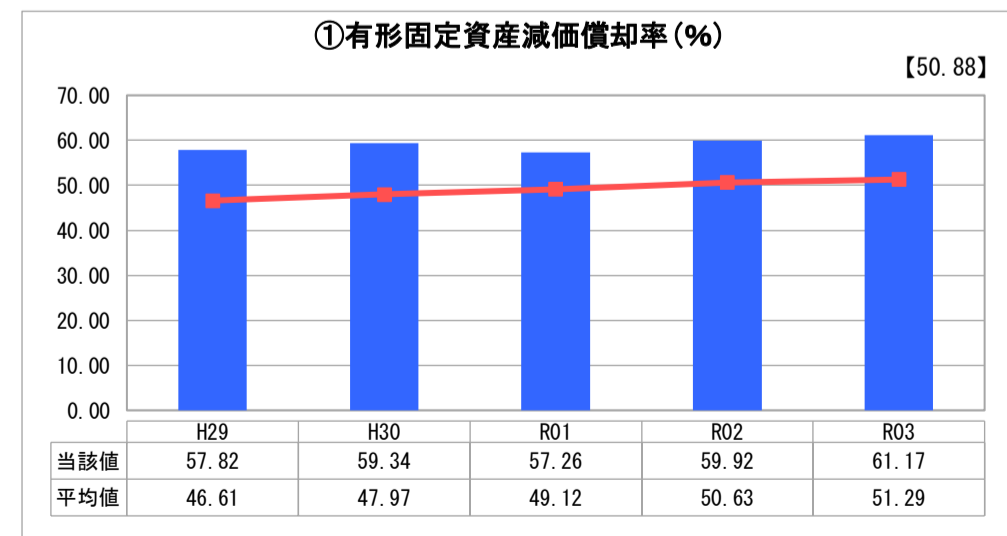
### 2. 老朽化の状況について

管路経年率は、全国平均や類似団体の平均値と比較し低い数値になっているが、施設及び管路は1980年代以降に建設されたものが多く、今後老朽化が進んでいくことにより、修繕等の維持管理費が増加することが見込まれる。

また管路更新率は低く、有形固定資産減価償却費率は平均値を超えており、全体的に施設の老朽化が進んでいる状態である。

法定耐用年数による更新は財政的に困難なため、アセットマネジメントを基に、重要度、優先度を考慮した更新を行い、費用の増加を抑制しつつ老朽化に伴う突発的な事故の軽減に努めて行く必要がある。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

令和2年度から旧簡易水道事業と統合したため経営指標が悪化しており、経営は非常に厳しい状況になっている。今後急激な人口減少による料金収入の減少は避けられない状況の中、老朽化する施設の維持管理を行っていくためには、限られた予算の中で最大の効果を発揮するよう更新計画を立て、確実に実行する必要がある。また経営改善による費用の抑制を実施すると共に、事業が継続可能な料金収入を確保するため、料金改定を行っていく。